

◆【海員随想】BISKRA号航海記(20)② 新木繁雄

**7月1日 シンガポール**

昨日、船長が「明日、エージェントにアンカー・システムの修理ができる業者を紹介してもらい、打ち合わせをしたらいいだろう」とっていたので、エージェントを待っていたがなかなか来ない。

午後4時頃になって、ようやく来た。彼がいうには「明日9時から9時半の間に事務所へ来れば、HIGOさんを紹介するから、彼が修理工場の手配をしてくれるだろう」とのことだった。

造船所へそのことを電話したら「シンガポールには知り合いの業者がないので、そちらで探して善処してくれ」という。

**7月2日 シンガポール**

朝、ツイントレーン用リモコン油圧パイプが、油タンクの付け根のジョイントの所ですっぽ抜け、作動油が全部抜けてしまった。これで終わりという最後の荷物が宙吊りになったまま、揚げも下げもできない。私はエージェントへ行かねばならず、修理を武村に頼んで上陸した。

シンガポールでは通勤時間のラッシュを避けるためか、9時前に市の中心部へ向かう車には特別料金がかかる。タクシーも例外ではない。10ドル払ってフロントガラスにステッカーを貼って走る。ともあれ、9時ちょうどにエージェントの事務所に着いた。しかし10時半になってもエージェントは出てこない。こんなものを待っていたら何時になるか分からない。

11時になったところで、事務員にダイハツの電話番号を教えてくださいと電話した。すぐ近くだった。訪ねていったら、関谷さんという駐在員がすぐくいていねいに対応してくれた。近くのレストランで昼食をごちそうしてくれた後「いつも工事をしてもらっている工場を紹介しましょう」ということで、堀口エンジニアリングへ連れて行ってくれた。

打ち合わせが終わって船へ帰ろうとしていたら、CNANの事務所から所長が電話してきた。「積荷がティンバーだから、溶接にはくれぐれも注意してくれ」とのことだった。

**7月3日 シンガポール**

午前11時に作業が始まった。右舷側の鉄片の溶接が終わったところでC/Oを呼んでテストしてみたら「いいように思う」という彼の見解だった。

アンカーを打ち替えて左側の修理にかかろうとしたけど、風が強くて打ち替えが大変危険だ。続きは明日にして、今日はこれで終わり。堀口エンジニアリングがチャーターしてきたボートに便乗させてもらい、上陸した。

船長に今日の仕事を報告しようと、エージェントへ行ったが、彼はいなかった。武村と2人で、日本人のマスターがいるすし屋で食事をし、街中をぶらぶら見物して歩いた。

クリホード・ピア午前零時発のサンパンに乗ったら、船長もいた。今日の工事の報告と、明朝1番にアンカーを打ち替えてくれるよう頼んだ。